

# 建築物の地質調査：留意すべき地盤（1）

## 有機質土地盤

- ・ 過大な沈下、杭基礎の抜け上がり、建物障害、建物本体と外構部の間の段差

## 広域地盤沈下地帯

- ・ 建物本体と外構部の間の段差、沈下の長期化

## 汚染地盤

- ・ 切り盛りによる盛土層厚、支持層の出現深度、地盤強度や密度の不均質性

## 解体跡地

- ・ 瓦礫などの混在、残存基礎による新規の杭や地盤改良の障害

# 建築物の地質調査：留意すべき地盤（2）

## 礫質地盤

- ・ 玉石の存在による杭工法の制約、巨礫の礫径及び硬さ

## 埋没谷が存在する地盤

- ・ 支持層の出現深度、適切な調査間隔

## 活断層に近接する地盤

- ・ 想定される地震の規模と再現期間

# 建築物の地質調査：計画のポイント（1）

## 調査すべき事項

- 支持層の確認（地層構成、せん断強さなど）
- 圧密沈下の有無（地層構成、圧密特性など）
- 汚染物質の確認（土壌分析試験）

## 関連基準・法令

- 日本建築学会：建築基礎構造設計指針
- 国土交通省告示第1113号

# 建築物の地質調査：計画のポイント（2）

## 調査手法の合理的な組み合わせ・段階的調査の実施

- 近隣ボーリングデータや地盤図などによる地質構成の把握
- 地質状況、敷地面積あるいは建物レイアウトに応じた段階調査
- 設計者と地盤技術者による調査の進行段階での方向性の確認
- ボーリングの補足としてのサウンディングの利用
- 支持層以深の地盤構成の把握
- 一般値、相関式の利用

# 建築物の地質調査：積算時の留意事項

掘削深度50m未満と以上で、1m当たりの掘削単価が異なる

サンプリング深度までは、サンプラーに応じた孔径で積算

試験の仕様を適切に決定：近傍の既存調査データ確認